

全員参加の楽しい学習をめざして

ゲーム的要素をもった学習形態とその実践（英語科）

足利市立毛野中学校 福田みさを

☆1 はじめに

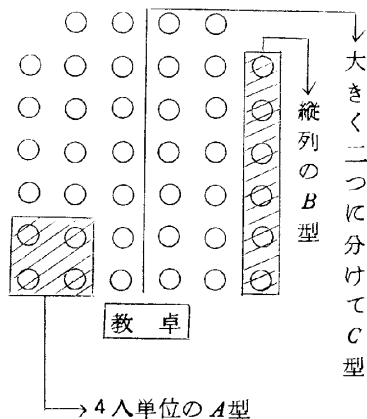
一人一人がいきいきと学習に参加している——そんな授業でありたい。評価は全員が5というわけにはいかない。評価は2でも1でも、その子なりに精一杯、そして助け合えば何とかなる——そんな授業でありたい。能力に応じた指導として、グループわけをし、異なった課題を与えるのは、ますます能力差を大きくし、どうも下位の子たちをレッテルづけ無気力化させ、ゆがめてしまいそう——その上効率の高い授業をと思ひ、その能力にあった課題を用意したり——とてもめんどうで、私にはできない。

全員が喜んで参加する授業——能力の高い子も低い子も精一杯——それが能力に応じた指導ではないだろうか——と私は考える。

☆2 生徒はゲームが好き

部活動でも生徒はトレーニングよりゲーム的なものが好き、又試合をやってその結果トレーニングの大切さに気づくのである。競争をして勝てば誰でもうれしそうである。そんな点から授業の中にゲーム的要素をとり入れ、誰もが参加しなければゲームがなりたない方法を考え、授業が特定の子たちに独占されないよう相互責任の形を考え実践、10数年になる。

☆3 グループのつくり方



A型 → 基本は男子リーダー1名、女子リーダー1名プラスそのグループに所属したい人2名の計4人で行われ、並ぶのはリーダー同士で並ばない。（縦にも横にも）
えらび方は男子リーダー10名、女子リーダー10名を生徒に推薦させ、男女リーダーの組みあわせを考え、まず、リーダーの班の席をジャンケンできめ、そこに属したい人がその席へいけばよい。誰が来ても班長はこころよく迎えてやるように注意しておく。何人も希望者が集まってきた時はジャンケンできめるようにとの約束。

座席は英語の時間は指定席で座席がえは前後期の2回で、かえる時は条件として、今まで組んだことのない人と組むこと——にしてある。各グループの能力が均等にならない

で、いつも優勝チームが同じではゲームにならない。そのため能力にかたよりがでて固定しそうな場合、教師が座席をかえなければならぬ。

40名のクラスで4人単位のグループが10できて、男女計20名のリーダーが誕生するのである。先ず「リーダー、がんばってネ」とはげます。半数がリーダーとなることは気分的にもかなりちがうのではないだろうか？

B型 → 縦の6~7人のメンバーで構成される。同一人数でなければゲームが公平でない時は7人分とせば、誰かが2回発表することになっている。この縦の能力も均等になるように配慮すべきであるが、4人グループがよく考えられていれたいうまくいくようだ。

C型 → 縦に大きく2つに分けた南北型。

☆ 4 A型をつかつて

① ストップウォッチをつかったReading指導

英語の嫌いな子をなくすためにはどうしたらよいか——？ 出来るようにすればみんな好きになるだろう。一朝一夕にできるようにするわけにはいかない。——できるようになったと思いきませるにはどうしたらいいだろうか。

できるようになった——錯覚？——自信をもたせる

この早道は何だろうかと考え、私は先づ読めるようにしよ、テストの点をとらせよう、の二つを大きなポイントにして、読みの指導に主力をそそいだ。

よく読めるようにするためには回数を多く読まなければならない。それも1回1回真剣に、正しく——きめられたわくの1時間の授業の中で読みの時間を多くとると、何を省かなければならないか？ そしてそれをどう補っていけばよいか。（実際に省いたことは日本語に訳すという作業をカットしてその課に入る前に全文の訳を与えてしまっている。そしてその訳の確認のため、又書く作業の補強のため1セクションに開きページ2頁書くことになっている。）

いろいろな問題をかかえながらも1時間の3分の1から2分の1強までの貴重な時間を読みにかけている。

② 12回の読み（時によって多少の差はあるが普通12回徹底して読む）

1回目 } 教師のあとをつけて一行ずつ3回読む（たいていの学校でやっていると思う）
2 " } 3回目にはスピードをあげて読む。
3 " }

- 4回目 5回目 } 4人グループの1番の者から1人1文づつ読む。全員起立して4人むかいあ
6回目 7回目 } って読む。お互いに注意したり教えあったりして読む。きめられたセクショ
ンが読みおえたら4人が同時に着席する。
クラス全グループが読みおえたら2番スタート、で又練習——4番スタート
までくりかえす。

板書例

- 5-25" ※その時、速さの5段階評価を板書するのである。その基準はまず1回目を生徒
4-30" に読ませる間に教師自身も声をだし1人で読んでみて、これでよし、とする秒
3-35" 数を5と評価するのである。1セッションは各学年とも15~30秒位が普通で
2-40" ある。あとは5秒きざみに4321とし、そこにはいらぬのは落第で特訓(残
1-45" って練習)ということになっている。

はじめは1にも入らないグループが12回読むうちに4か5までにのぼって行く。回が進むごと
に進歩が目に見えるので、どのグループも真剣である。又個人だけ読めてもだめなのでお互いよ
く注意しあったりめんどろみたりしている。

8回目 → 教師のあとをつけてしあげ読み。(正しさの確認)

9" → とんりの人とかわり番に読む。(2人で評価)

10" → 1人で読む。(1人で評価に挑戦)教師は特に読めない子を発見、1にも入らない子
(クラス1~2名)その子にはやさしいところを順番をくるわせてよませてもらって
もいいヨと言ってやる。

11回目 { 「本番2回」と言うとスタートをきめて2回練習するのである。発表の準備である。

12" { 教師は読めない子が仲間はずれにならないようその間注意する。

ここまでで速さの上ではパスするが、速さに気をとられて正しい読みができていないと困るので
全グループの発表にはいる。1グループ40秒として10グループで10分もあれば全グループ
の発表ができるわけである。

③ リーディングチャンピオン(4人グループ)

どこのグループにも10点をあたえておく。ミスがなければ10点である。タイムと点数の両方
で評価される。全グループが終えた時に1位2位3位がきめられ、チャンピオングループに賞カ
ードが与えられる。点数がタイムより優先する。同点の場合はタイムの方が上位となる。

④ ヒアリングチャンピオン(1人)

各グループのリーディングの発表の時に反人の発表に神経を集中して聴くための一つの訓練のた
めにゲーム化したものである。1グループの発表と同時に、今のグループは何点か? つかえた
のは? 読めなかったところは? まちがったのは? 文のあげさげは? など……10点から
マイナスしていくのである。そして各人が思った点をノートする。その間教師はタイムを板書し

直後教師が10, 9, 8, …と語り生徒は自分の記入した点の時に手をあげる。即座に教師自身の評価点を発表, 教師とズバリあえば2点(2重丸)1つちがいは1点(1丸)の約束になっている。全員につたえたいミス時はそのつど教師が注意したり, 今のグループのマイナスはどこか? など言わせてみる。全グループ発表のあとで丸の数を合計して, 終了後全員起立させ丸の数を教師が0, 1, 2, …と言っていくと, 自分の数の時に着席していく。グループの数より丸の数が多ければ「優秀」と言う。更に11, 12, 12, …最後に1人がのこる。その人がヒヤリングチャンピオンである。個人賞のカードを与える。教師握手, 思わず拍手がおこる。

☆5 B型をつかつかつて

現在私の授業のベースとなるのはA型のリーディングが1時間の前半で, 後半の15~30分はこのB型で縦列のトレーニングにはいる。

① 縦列リレーゲーム

① 今日のスターターは列の一番前とうしろ(どこでもよい, 前から2番目3番目とか, うしろから3番目4番目とか, 一列の7人が1つの輪になっていると思えばよく, 発表して, OKになれば, その人は着席して次の人が立つ約束になっている。)

② 1度に12名の人指名をうけている

出題はできるだけ広範囲に考え, 復習から習わないものまでをふくめ, やさしいもの, むずかしいもの, 生徒から自発的にでたもの——など。

③ 早く手をあげた人を指名(原則として)立っている12名の人優先

教師は早く手をあげた人, 早くからたっている人をさしてやればよい。出来れば着席して次の人の番になるので, 同一の人に指名がかたよったり, 忘れられた生徒を気にしなくともよく, 公平に指名ができる。

④ 教え合いOK 助け合いOK

まず早く手をあげないと指名されないので, その気がまえで出題をきく。自分でわからない時は, 前後左右斜の人たちの助言を求める。教わりながら答えてもOKで, 又簡単に教えられない時やむずかしい時で12名の立っている人が手があがらない時は, 着席している人でわかる人は拳し, 指名されれば答えることができる。その場合自分の列の自分に近い立っている人を着席させることができる。

⑤ 助け人走る(こんなテレビの題名があったので)

自分の列の人が全部終って, 1あがり, 2あがり, …となり, 自分の列に助けてやる人がいなくなった時には, 他の列の人を指名して着席させることができる。他の列の人を助けた時「助け人走る」という。1あがりかたたら, 残り全員起立となる。

⑥ 文化財保護委員会

たまに, 最後まで残った人の前後左右斜の人を立たせ「○○君をかこむ文化財保護委員会

長——」という。誰かが〇〇君という。できるだけ元気の良い成績の良い子を会長として会長〇〇君と発表。いつまでも（着席しないで）残っているのだから文化財であり、それをとりかこんでいた人たちは保護委員会と呼ぶのである。当然クラスにはなかなか答えられない人がある。その人たちを何とか発表させるためには、まわりの助力が必要としたアイデア、いつまでも残っていても平気な子がいる時は保護委員会がんばって——と途中ではげます。「Be kind to the others.」親切に教えてやってネと言う。

① あがり

1 あがり, 2 あがり, ……6 あがり, 2 回戦の時には 2 回の平均で上位グループをきめ, グループ賞カード 1 枚を与える。(列によってジャンケンでそのカードのもち主をきめたりグループによると順番にカードのもち主をきめるところもある。)

② スペリングチャンピオンゲーム(縦列ゲーム)

3~7分あれば全員がおわり, なかなかスピードがあって, 生徒が活気に満ちて, 大変よところぶゲームである。教師が *boy* と言うと 12 名の立っている人は挙手なしでその発音 *boy* [*b o i*] ボイと言え *OK* である。同時の時は声の大きい方が勝となっている。①でのべた縦列リレーゲームで出題切れになってしまったのに勝負がつかない時や, 時間が残り少ない時は内容のポイントをおさえておいてこのスペリングチャンピオンゲームに入ると, 短時間で全員発表ができ, それでも時間的に忙しい時は「オープン」と言う。すると, 着席している人でも誰でも何回でも挙手なしで答えられるのである。即座に答えられた時の満足そうな顔, 誰にでもできるゲーム。なお時間的に余裕がある場合は, その語の発音のあとに, その語の意味を言ったり, 更にはその語をつかって文章をつくらせると, 基本文をよくおぼえるようになる。その発表する文は事実でなければだめというきまりにしておく。否定文や疑問文がでてくるようになる。

③ スペリングゲーム(縦列ゲーム)

綴りをおぼえることは大変苦手である。その苦手を勉強もゲームと名がつくと勇んでやるようになる。列の代表 1 名ずつ, 黒板を 6 つの列の分にわけて, 言われた単語を書くのである。できれば正の字で得点を加算していく。スペリングクラスマッチの前などこのための時間をとりたいたいものである。割合に時間が多くかかるので(30分は必要)なかなかできない。

④ パスワード(連想ゲーム)(縦列ゲーム)

語数をふやしたい時, 単元の切りで時間があまった時, 又補教にでてやる事の指定がない時など, 試みたいゲーム, 特に上級学年に進むほど面白がる。

やり方は列の一番りしろの人を立たせて出発する。教師がある単語を言い, それから連想する単語を挙手なしで発表するのである。当れば得点になる。当らなければ 1 回言ったら着席しなければならない。ヒントは三つ位用意しておくこと。又その反応によってヒントをかえること

もありうる。例をだしてみよう。

- ① 1. *fruit* 2. *red* 3. *round* と言えば *apple* がでてくる。
第3ヒントまでいかなくとも答えはでてくる。
- ② 1. *Pine (tree)* 2. *Japanese plum (tree)* といえは *Pine* がわからずにパイナップルとまちがえて *fruit* などと言う子もいる。そのうちに松・梅がわかり、誰かが「竹」とさげふ。「*Please say in English.*」と教師は言う。一斉に和英辞典をひく、早く引けた子は自分の列の立っている人にその辞書をみせ教えてやる。→ *bamboo*
- ③ 1. *insect* 2. *small* 3. *black* これでも答がでなければ 4. *sugar*
5. *like* 6. *summer* など思いつくヒントをあげていくのである。→ *ant*
- ④ 1. *salad* 2. *triangle* 3. *bread* → *sandwich*
- ⑤ 1. *Australia* 2. *wool* 3. *animal* → *sheep*
- ⑥ 1. *accident* 2. *car* 3. *siren* → と言うと夢中になって救急車を辞典でさがしだし → *ambulance* の答をだす。
- ⑦ 1. *fish* 2. *May* 3. *baseball* ここでわからなければ 4. *Hiroshima* となると → *carp* の答がでてくる。なぜその答になったかわからない子は不思議そうな顔をしている。そんな時、生徒に説明を加えさせたり、教師が加えて納得させる。

どうです、面白そうですね。やってみませんか。生徒に問題をつくらせるのも面白いです。そしてそれらを教師がストックしておけばよいのです。立っている6名の人が答える権利があるのです。1問につき何も言わなかった人はそれで終り次の人が起立して次の出題になります。何とか言わないと得点にならないので何とか言おうとしますし、その列の人全部が協力しあいます。もちろんグループの賞カードをめざして。

☆6 C型をつかつて

① *Question and Answer* ゲーム

質問は？と聞いても何も無いのがふつうである。そこで考えたのがこのゲーム。

- ① チームは大きく縦に2分、バレーボールに似て真中にネットがあるヨ。質問のボールをとばそう——と言う。同位置のむかい側の人が答えなければならぬきまりにしてある。その人が答えられない時はその人の前後左右斜の人が答えなければならぬ。答えられない時は立っている。はじめに5分とタイムを切って、タイム切れの時に立っている人の人数が多い方が負け、もちろんその前に全員が立ってしまえば勝負ははやい。

② 攻撃こそ最大の防御なり

人間だけが質問できる動物なり——とはげまして

もちろん自分がわかっていることでも、わからないことでも質問になる。単語の読みや意味や文の書きかえから、小さな新出語の符号 —— e t c. いろいろな質問がでる。質問になるかならないかは教師が判断する。必要に応じて教師が説明を加えなければならない時もある。

㊦ 立った人がしゃがみなければ ——

自分から発問して相手が答えられず立った時に自分がしゃがむことができるルールになっている。すると何とか質問を考えだす習慣がつく。そして全然わからないと質問のできないこともわかる。

㊧ いい質問ネ

よい質問をほめてやることを忘れてはならない。もちろん質問をうけて答えられた人も、よい答をだした人もほめてやろう。長くほめることはない。Good!の一言でよろこぶはず。どんな問題もくいとめる子、仲間から「頼むゾー」の声がかかる。

㊨ も一度やろう

5分前に全員が答えられず立ってしまえば、そのチームは負け、1回終ると負けた方のチームから「先生も一回やろう」と言う声が出る。時間があれば「よし、2回戦」——ということになる。

㊩ いろいろな質問

あまり何回もやるとやたらとむずかしい質問になる。その加減がむずかしい。1年生は既習の知識でないと答えられないものは、あまりとりあげず必要に応じて教師が答えてやる。教えてなくも出来そうな問題はやらせてみる。いろいろな質問は教師にとって「こんなことがわからないかナー」と参考になり、生徒も質問のしかたがわかってくる。

☆7 その他のゲーム

① ハンギング(首つり)

これは私が考えたゲームではない。ただ教室内でグループで行う方法を考えただけであるが、生徒が大好きなゲームである。4人単位のグループで行い、それを点数化したのである。

② ゲームのやり方(出題単語の範囲は)

知っている人もあると思いますが、一つの単語の綴りをあてるゲームである。4人が黒板の前で。4人で相談して出題する単語をきめておく。1年の初歩では教科書から出題させ答える方は教科書をふせさせておく。目的は単語の綴りをおぼえることにある。1年も後半になると辞書をつかわせるようにすると更に面白い。3年生などには既習単語又は日本語化された語、誰もが知っているような語と範囲をひろげていく。

㊤ 各グループ1人立って

文字の数を黒板に線をひく。例えば *father* なら ————— と書けばよい。

各グループ(4人)の立った1人が答えていくのである。答え方はアルファベットの1文字を言うだけである。例えば *father* の出題に対しては *a* と言えばあたりで得点になり *c* と言った人ははずれである。前にでている人は、あたりは線の上にはずれは又別のところに文字を書くのである。出題者はなかなかあたらない方が得点になるのである。あたらない文字が一つに対して1点をあたえる。あてた人は続けてあててよいきまりになっていると、たまには完全に1人であてることもある。

㊦ 語のつくりを知る

このゲームをやると頭の良い子は多くの単語の中に *e* の文字の多いことを知り「*e*」と言うと当たる確率が多い。又、次に単語の中には母音字がある事を知る。又 *th* のつなぎや、*ght* や *q* の次には *u* のくことをゲームの中で知っていく。長い文字数だから母音が二つ位ありそうだとか、何となくわかってくる。又能力の低い子もアルファベットの1文字を言うだけで当れば一人前なので、大はりきりする。

㊧ ハンギング

首つりの名は1人が言った文字があたらなければ一つづつ首をつる人形を黒板に書いていくのである。首を手を胴を足を — というように。4人いるから1人をその役にあてると、それはおれが書くと立候補する者もいる。

㊨ 勝負は?

前に出てあたらなかった文字数と自分の席であてた文字数の合計でそのゲームの勝負はつく。生徒は辞書のみて日本語化した英語をさがし、正しい綴りを知る。

このハンギングは生徒がとてもやりたがりますが、全グループにやると1時間かかってしまうので現行の時間割の上ではこんなゲームを楽しんでいる余裕がないのが残念である。

② 単語つくりゲーム

貴重な時間の中から年間一回位、特に辞書引きの指導の時にやらせたいのがこのゲーム、*Christmas* の日などクリスマス之歌をうたい *Christmas* の単語を黒板に書いて「今日はネ、おもしろい競争をやってみるかな、4人グループ机をあわせて」とグループで机をまとめさせる。そして辞書をださせる。

① *Christmas* この単語で —————

この単語は *c-h-r-i-s-t-m-a-s* と9つの文字でできていますね。この9つの文字のく

みあわせて単語をつくってみましょう。例えば *c* と *a* と *t* をつかうと — *cat* の答えがかえってくる。*i* と *s* で *is*, 短かくても長くてもいいよ, 何かできるかな, *his* — 「O. K Good」次の人が *her* と答える。*her* はどうかな *h-e-r* 残念ながら *e* がこの中にはありません。ないものはつかえません。生徒はもうやりたくてムズムズしたので, あとはやりながら一つの文字を何回つかってもいい — とか — そのつど生徒の質問に答えてやればよい。

㊤ グループで協力して書くこと。番号をふりながら各人が書くこと。ノートをみせっこしてもよいこと, さあ, どこのグループが一番単語をつくれるかな。

㊦ うるさいグループはビケにするヨ

競争となるとすぐ興奮してうるさくなるのが欠点, そのためにうるさいチームは失格ということにしておく。教えあうのは声を出さないことしておかなければならない。

夢中になって辞書をめくり, いろいろな単語を書き, 意味を知る, そんな目的で短時間で効果のあるゲームと思う。*Christmas* の 9 つの文字からいくつぐらいの単語ができると思いますか。100 以上の単語ができるのです。一時間は十分にかかりますが, つごうによっては, 20 分位でできあげ, 一番単語数が多いグループを優勝とし, そのあとは宿題としてもよい。いくつ書いてくること, もよいが「誰が一番作るかな」という方が効果的である。

☆ 8 生徒のことばから

A ゲームのような楽しさ

先生の授業はゲームのような楽しくナンボの速いものでした。休むひまもないくらい忙しい。まるで 1 時間戦争をしているようです。—— そう授業は戦争なのです。1 時間 1 時間自分と戦わなければならないのです。英語を学びながらも私はいろいろなことを学びました。

英語の時間が終ると 100 米を全力で走ってきたように疲れます。それと同時に満足なため息をつきます。それ程私は英語に対して夢中でした。

B 自分が答えなければならない

英語の授業で私がいいなあと思うところは, 積極的に自分から授業に参加しなければならないところです。これはなんの授業でも必要なことですが, 誰かが答えてくれるだろうなどという考えでは授業がうけられないところです。これはたいへんなことですが, やっているうちに自然と自分の力がついてきたような気がします。

C 握手したよろこび

先生は覚えていないと思いますが, 私先生と握手したことがあるんです。その時は感激してとびはねるほどよろこんだんです。おかしかなあ?

D 先生から学んだ

僕は先生とつきあって(教わって)先生からいろいろなことを学んだと思います。「ファイトをもってなにごとにもまっ正面からアタックする」——先生の態度から一番に感じました。

修学旅行の時、——ドキドキしながら外人に話しかけてみました。あたってくださいろ——の精神です。そしてそのMr. Hool と今でも文通が続いています。それからHoolさんに先生のことを紹介しました。その時の文をもう一度思いだすと、

We are taught English by Misao Fukuda. She is an old lady. But she looks very young. She teaches us very hard. We are happy when we have an English lesson.

そして彼からも「それはよかったね。先生についてももっともっと勉強して下さい ——」と返事の中に書いてありました。

E 保護委員会

私は先生の授業が好きです。次々に出る質問に一生けんめいに答え、自分のまわりの人は保護委員会で、まるで英語の時間の時はみんな他人には思えません。自分が答え終ると回りの人々をたずけるために、辞書をひらいたり、参考書を開いたり……。

F カードをねらって予習

遊びながらというとおかしいけど、楽しみながら自然と勉強していったかんじだ。各班ごとの競争でカードをねらって負けまいと必死で勉強(予習)していったのだ。むりやりにやらせられたのではなく自分から進んでやったのでそれも苦痛ではなかった。

G 私を熱中させたもの

土曜日の午後3時ラジオのスイッチをいれる。そして英語のノート整理、そのノートが何冊にもなりました。そして私は考えたのです。いったいこれほどまでに私を熱中させたものは何だったのだろう——と。

H 「やった~~~~」

おどろくことに私は中学1年から3年までに英語のノート11冊おえていました。中1の時は6冊、中2のとき3冊、中3のとき2冊(あついノートですよ) それもぎっちり、ノートはやはり始めるのがつらいのだけど、やっているうちに眠くなって字があさっての方をむいた時もあった。でもおえてペラペラとノートをみかえすと寒い冬でも心から「やった~~~~」と思わずうれしくなります。

I 苦しみのあとの楽しさ

私にとって*English notebook* と問いかけてみますと、それはとても貴重なものだったと感ずいます。実際ノートをセクションごとに2頁何か書かねばならない作業はきつい、つらい仕事でした。けれど私は苦しみのあとの楽しさを知ったような気がします。ノート提出の直前までかかってやっとまとめあげたノート。そのノートの評価が5に○がついていた時「あゝ先生もわかってくれたんだなあ」とうれしくなります。こんな快感の中で「よしこのノート全部5に○してやるぞ—— /」なんて——なんとも言えない楽しさがわくのです。おかげで3年になってから全部5○をとることができました。このノートはいつまでも忘れられないことでしょうね先生!

英語の成績はあまりよくなかった私ですが、私は英語が好きでした。

J よく笑ったナー

英語の時間で楽しかったことは、各列で競ってしあがりカードがでたことです。そのためみんな答えようとしていろんな答えがでたので笑いが絶えなかったのです。

(そういえばこの間も大笑いしました。対になる語のまとめをしていた時、*father-mother king-queen*の時教わりながら答えた子が*king-queen*をキングクングときいてしまって、大きな声でキングクングと発表したのです。*closet*がでた時*water closet*は?の間に水筒とか水そうとかプールとかまほうびんとか、その時は参観授業で外来者がいたのですが、そんなのは平気で、珍答がでてくるのです。)

K まちがっても平気

英語の時手をあげてまちがってもぜんぜんはずかしくないのが不思議です。

L 英検合格のよろこび

12月31日この日は絶対に忘れられない、3級の合格通知が来た日なんです。私は本当にとびあがってよろこびました。もう何かにむかって叫びたいくらいでした。その日1日私の心はずんでいました。この喜びは一生忘れません。

(英検合格のよろこびはかなり多くの人が書いていました。)

M 活気に満ちた授業

慣れてきてからは、英語の時間が楽しかった。ゲームをやっているみたいで、遊びながら勉強しているようだったけど、今ではおどろくほど力がついたように思えます。(自分では)

先生って授業のすゝめ方がじょうずですネ、ちっとも苦しい授業じゃありませんでした。でもその影に先生の計算しつくされた計画と努力があることを忘れていたような——いや、今まで気づかなかったような——今まで通り、活気に満ちた授業で先輩たちをよろしく。

N あこがれ

ノート・ワークの提出はたいへんでした。正直いっていやだナーと思ったこともありましたが、今考えてみると3年間やり通したんだという満足感でいっぱいです。その反面Step 12の最後の1ページを書きおえた時、ふとさびしくなりました。このノート一生心のどこかにしておこうと思います。そしていつかノートを開いた時、先生の笑った顔、おこった顔、みんなの顔、英語の授業を思い出すだろうと思います。私は先生に英語を教えていただいて、先生に *teacher like you*. これが私の第一の目標です。

※卒業する時に書いてくれた、英語と私、先生と私の中からの抜き書きです。卒業にあたって、生徒から先生への思いやりの言葉かもしれません。全員がこうだとは私も自信がありません。英語が嫌い、先生が嫌い、こんな子もいるかもしれません。でも私は私なりに精一杯やったんだからそれでいいじゃないか、と思っています。そしてよく勉強してくれた生徒に感謝したい気持ちです。

☆ 9 1時間分の学習内容からの80の質問例

3年英語 Total English Step 9 [2]

本文

Miss Brill spent half of her day outside. Every afternoon she went to a lovely park which she liked very much. It was a beautiful wide park which has a pond and some low hills. It was busy every season of the year. In the winter children whom she loved played winter sports in the snow. In the summer students could lie on the grass. They lay there and read their books. The seasons that Miss Brill liked the best were the cool seasons. Then she could wear her fur piece. ※ 指導のポイント 関係代名詞

Reading の発表をおえ, Hearing のチャンピオンに賞カードを渡し, ①今日は前から2番目3番目(その人たち12名が本をもって立つ) You are starters.

① Miss Brill spent half of her day out side. 疑問文に

P 1. Did Miss Brill spend _____ ?

① Good. Did Miss Brill spend _____ ? (も一度くり返して) Answer.

P 2. Yes, she did. ① spend の変化 P 3. spend spent spent

① O. K. 他に d - t の変化は? P 4. build built built

P 5. send sent sent P 6. lend lent lent P 7. spend spent spent

① outside を聞く疑問文? P 8. Where did Miss Brill spend _____ ?

① Every afternoon she went _____. (文を読んで) 大切なところは?

P 9. which ①丸でかこんで 何で大切? P 10. 関係代名詞 ①先行詞は?

P 11. a lovely park ①何格 P 12. 目的格 ①簡単なみわけ方は P 13. 次に〜がといえる主語がきている ①2つの文に独立させたら P 14. Every _____. She liked it very much. ①park のいみは P 15. 公園 ①national park は?

P 16. 国立公園 ①北海道の国立公園は P 17. Daisetsuzan, Akan, Shikotsu Toya (スゴーイ, 社会の得意なN君のうれしそうな顔)

① No parking は? P 18. 駐車禁止 ① His house is in front of the park. いみは? P 19. 彼の家は公園の前にある ①(すぐに逆に聞きかえす)彼の家は公園の前にある Say in English. P 20. His house _____.

(今出した問題を聞きかえしたり, くりかえさせたりすると友だちの答えも注意深く聴くようになる。) ① She went to _____. の文のいみは?(いみは?と聞かれれば, 誰にでも答えられるチャンスである。— 訳文はあらかじめ印刷してあるからである。 P 21. (訳をよみあげる)

①なかなか上手に訳すネー (みんな笑う) 次に It was a _____. It は何?

P 22. park ① beautiful の変化 P 23. beautiful more " most "

① *wide* の変化 P 24. *wide wider widest* ① 反対語, 変化も P 25. *narrow narrower narrowest* ① ついでに深いのは? P 26. *deep deeper deepest*

① その反対 P 27. *shallow shallower shallowest* ① ついでに本が厚いの厚いのは? P 28. *thick thicker thickest* ① その反対 P 29. *thin thinner thinnest*

① *pond* は? P 30. 池 ① 湖は P 31. *lake* ① もっと大きくなって P 32. *sea* ① もっと大きくなると P 33. *ocean* ① では太平洋は P 34. *the Pacific Ocean* P 35. ハイハイ大西洋 (生徒が聞かないのに手をあげる) ① はいどうぞ大西洋 P 35. *the Atlantic Ocean* ① O. K. (生徒側が発表したいものは必要に応じてとりあげる) ① *hill* と同類語 P 36. *mountain* ① *low* のいみ P 37. ひくい

① 反対語変化も P 38. *high higher highest* ① *Speak in a low voice.* P 39. 小さな声で話さない ① *I bought it at a low price.* (誰も手があがらない) では *price* は? (すぐに辞書をひく子) P 39. ねだん ① では *I bought* ① では *I bought it at a low price.* P 40 私はいねだんでそれを買った。(辞書をみながら答える。生徒に辞書をひかせたかったら、教師が生徒用の辞書をひくことである)(このあたりで全員が終わり、1あがりから6あがりまできまってしまう。そこで) 2回戦

All stand up. ① 大事なところは P 41. *which* ① 何で大事? P 42. 関係代名詞 ① 何格? P 43. 主格 ① 簡単なみわけ方は? P 44. 次に動詞がきてる ① 2つに分けて P 45. *It was ... It had a ...* (同じような問題をあきずに、たえずくりかえしてやる。英語は体育と同じくえしのトレーニングが必要だと思っている)

① *It was busy* . *It* は? P 46. 公園 ① *busy* の変化は P 47. *busy busier busiest* ① 注意は P 48. *y* を *i* にかえて *er est* ① 反対語は? — ひま P 49. *free* (誰かが、おひまならよってよネと語り) ① どうぞ *Please say in English.* “おひまなら、寄ってよネ” P 50. *Please call on me if you are free.* (1度でこんなりまくすらすらはできない。協同でどうにかまとめる) ① ではあなた明日おひま? P 51. *Will you be free tomorrow?* ① きのうひまだった? P 52. *Were you free yesterday?* ① 次, *season* 4つ P 53. *spring, summer, ...* ① 1年にはいくつ季節がありますか P 54. *How many seasons ...?* ① *Answer* P 55. *There are four ...* ① *What season do you like best? Answer.* P 56. *Summer* ① *Why?* P 57. *Because I can swim in summer.* P 58. ハイ *Because I have a long vacation.* ① O. K. *I think so, too.* ① 春と秋どっちが好き? *Say in English.* P 59. *Which do you like better, spring or fall?* ① (も1度くりかえして) *Answer.* P 60. *I like spring better.* ① では両方好き、誰か言えるかな P 61. *I like both ...* ① *Good,* ではどちらも好きじゃない。 P 62. *I don't like both ...* ① O. K. でも他の表現 *A* も *B* も両方とも〜でない P 63. *I like neither spring nor fall.* (全員スゴイとほめる) ① *In the winter ...* (文を読んで) いみは? P 64. 冬には ... ① (ここで又 *whom*

に関して同じようなことを聞く) P 65.~P 68. (同じように答える) ① snow は?
P 69. 雪 ① snow man は? P? 雪男 P 70. ちがり雪だるま ① snow ball は?
P 71. 雪のだんご(チェスターいり) ①(雪合戦のことは聞いたので) 雪合戦は?(手があがらない)雪の戦い P 72. snow fight ① O. K. 毛野中 fight / (部活動のかけ声をまねる) ① snow ball でなく rice ball は? P 73. にぎりめし(そうか、そう言うのか—の声) ①雨のつぶは rain drop 雪は?(みんな辞書でさがす) P 74. snow flake ① Good. flake て知ってるでしょ P 75. チョコフレーク ① O. K. Very Good. (みんなで笑いながらチョコフレークを口づさむ) ① flake 他に? P 76. まぐろの flake ① O. K. こまかくなっているかんづめにあるネ P? ハーイ、いわしのフレーク ① 変わりばえしないから No good. ① 次の In the summer ~ . 意味は P 77. 夏には ~ ① lie の変化 P 78. lie ~ . ① The seasons ~ この文を1カ所区切るとしたらどこ? P 79. were の前 ① そこまで訳すと P 80. ブリルが好きなの ~ ① that ○でかこんで, thatは何? P 81. 関係代名詞 (途中すこし snow あたりで調子にのって遊びすぎたようだ) ① ○○君最後のいみは? ① ○○さん wear の変化は? ① ○○君 fur piece て何? (すべて①の Good とか Very Good とか指名を略しました。)

こう書いてみると、いともスムーズにしているようであるが、汗だくだくの仕事である。こんなやりとりをしていると30分位あっという間におわってしまう。必ずしも80の質問を考えておかなくともよい。ただ新出語ぐらひはこちらも生徒用の辞書をひいておかなければならない。人数分に問題が足りなければくり返し Repeat させるか、スプリングチャンピオンゲームをやるか、本文の1行ずつの暗記をやらせてもよい。1年生などはそんなに出題が多くないから文の暗誦や、単語を与えての作文や、構文を与えての作文などを言わせるようにする。例えば、*There is ~ There are ~* の文ができれば、自分のまわりをみて、その条件にあった文を言わせるのである。又一つの絵、さし絵から自由に文を表現させるのもおもしろい。1枚の絵からクラス全員が発表できる。自由発表は高学年むき。

☆ 10 おわりに

全員発表、そして成功感を、喜びを、そして効果的な生徒のわかる授業を——そんな考えで実践してきた。そのためには教科内容の本質に的をあてた教師による発問の組織化が大切である。教師があらかじめ用意している答だけに授業がすすめられ、それ以外の応答にはみむきもしないで切りおとされるような授業には、創造も発見もない——と思っている。hat の一つ単語からぼりしの種類をしらべてきた子、train からのりものをしらべてきた子、「先生聞いてくれ」と手をあげる。そんな生徒にはみんなに評価5をやりたい気がする。もちろんすべてがこの方法の授業ではない。新出文法的なことは文法ノートをもたせてノートをとりながらの授業もっている。しかし、何回かくり返しのべてきたように、英語は体育のトレーニングと同じ、ながめていてはダメ。くりかえしくり返しやっているうちに出来るようになる——をモットーに実践して

いる。1時間の中には1年の初歩のものからをくり返そうと思っている。

チームリレー式なのでどうしても発表しなければならないし、まわりの援助があるから何とかなる。教師が生徒を格づけしないで、生徒自身が全神経をかたむけて自分のできる問題にくいつくのである。それは同時に個人の能力に応じた出題といえるのではないだろうか。

私はいつも考える

一人一人がいきいきと、全力でぶつかってくるような、そんな授業でありたいと、楽しい授業になるように、もっともっと工夫すべきだと思います。

私のねがい

英語の時間がる時間では楽しんでいる間がない。それどころか無理を知りつつ進んでしまうこともある。—— もっと時間がほしい。

評

全員参加の楽しい授業ということは、だれしも願うことだが、実践となると、なかなか難しい問題である。しかし、こうした問題の解決のために、いろいろと工夫しながら実践をすすめてきたその研究成果は注目すべきものがある。特に、授業の中にゲーム的要素を取り入れ、能力の高い子も低い子も助け合いながら喜んで努力している姿はすばらしいものである。生徒のニードや能力に対する細かい配慮、賞や称賛という強化因子の適切な使用は、学習意欲の喚起に大いに役立っているようである。さらに、ノートの効果的な活用がノートへの愛着にまで発展してきている。つまり、学習の個別化と集団化を巧みに利用しながら学習効果をあげているわけである。アメリカでも、授業にゲームを取り入れて楽しい授業のための工夫をしているようである。論理性だけで学習に興味を持たせようとしても、やはり無理であろう。子供の心理的発達や感情をも考慮しながら授業をすすめることの大切さは、セサミストリートを見てもうなづけることである。以上のような配慮が、たとえ最初は外発的動機づけであっても、やがて内発的動機づけに移行していくものと思われる。現に、生徒は英語そのものが好きになってしまったようである。